

病虫害発生予察注意報第 1 号

佐賀県

作物名：麦類
病虫害名：赤かび病



1. 注意報の内容

発生地域：県内全域
発生量：平年より多い

2. 注意報発令の根拠

1) 定期調査における圃場での発生状況

4 月 3 日～6 日に実施した調査の結果、小麦（県内 23 圃場）及び大麦（県内 21 圃場）のいずれにおいても、例年と同様発生を認めていない。

2) 孢子飛散好適日の出現状況

赤かび病の孢子飛散好適日が出穂後に複数回連続して出現しており（表 1）、感染に好適な気象条件で推移している。

表 1 麦類赤かび病の孢子飛散好適日の出現状況

アメダス 地点	3月				4月											
	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
佐賀			●	●	●	●		●	●				●	●	●	●
白石				●				●	●					●	●	

孢子飛散好適条件：①日最低気温が 10℃以上、②日最高気温が 15℃以上、③降雨日（または湿度 80%以上）またはその翌日、以上の 3 条件を満たす気象条件

3) 気象予報

九州北部地方の 1 か月予報（福岡管区气象台 4 月 9 日発表）では、向こう 1 か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想されている。特に 1 週目（4/11～4/17）は低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないと予想されており、本病の感染が助長されるおそれがある。

以上のことから、現時点では発病を認めていないが、今後、本病の発生が増加し、被害が生じるおそれがある。

3. 防除対策

1) 小麦

- (1) 本病に対する1回目防除を開花始め～開花期（出穂期の約7日～10日後）に確実に実施する。1回目防除が遅れている場合は、降雨の合間を見計らい速やかに薬剤防除を行う。
- (2) 本年は赤かび病が発生しやすい気象条件で推移しているため、発病抑制及びかび毒低減を目的とした2回目防除を開花10～20日後頃に行う。収穫前日数や使用回数に留意して薬剤散布する。
- (3) 生育後期のかび毒低減を目的とした追加防除は、今後の天候次第で検討する。
- (4) 刈り遅れや倒伏により麦類が降雨に当たると、かび毒産生を助長する原因となるため、適期に確実に収穫する。

2) 大麦

- (1) 本病に対する1回目防除を葍殻抽出期（出穂期の約2週間後）に確実に実施する。1回目防除が遅れている場合は、降雨の合間を見計らい速やかに薬剤防除を行う。
- (2) 本年は赤かび病が発生しやすい気象条件で推移しているため、発病抑制及びかび毒低減を目的とした2回目防除をその7～10日後頃に行う。収穫前日数や使用回数に留意して薬剤散布する。
- (3) 刈り遅れや倒伏により麦類が降雨に当たると、かび毒産生を助長する原因となるため、適期に確実に収穫する。

表2 麦類赤かび病等の防除時期

麦種	品種	開花		開花10日	開花20日	開花30日				
		↓出穂期 ↓穂揃期	↓開花期(小麦)	↓葍殻抽出期(大麦)						
		0	+5日	+10日	+15日	+20日	+25日	+30日	+35日	+40日
小麦	パン用品種			←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
	シロガネコムギ			←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
	チクゴイズミ			←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
大麦	はるか二条			←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
	しらゆり二条			←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→
	サチホゴールデン			←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→

←→ :1回目防除 ←→ :2回目防除

←- -> :かび毒低減を目的とした追加防除

注1)かび毒低減を目的とした追加防除は、今後の天候次第で検討する。実施する場合は、前回防除から7日以上経過している場合に行う。

注2)薬剤の使用方法(収穫前日数、使用回数)に特に注意する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952)45 - 8153 FAX (0952)45 - 5085

Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページ <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

病害虫総合防除計画 <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji003101844/index.html>

防除センター

二次元コード



総合防除計画

二次元コード

